

# 琉球・沖縄 年中行事 Q&A

## お仏壇の 遷座法要について



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職  
綿依 龍照 (きえりゅうしょう)

**Q** 新築して10年、母が亡くなり2年が経過。先日、三回忌を供養しました。これを機に、1階にある、母が供養していた父のお仏壇と、ウグワンしていたヒヌカンを、私たち娘夫婦が住む2階へ移動したいと考えています。「簡単に移動できるよ」という方と、「簡単には移動できないよ」という方がいて、ちよつと悩んでいます。

(那覇市・Tさん)

**A** 「お仏壇」と、「ミーヒヌカンガナシー(御火之神加那志)」のウグワンケ(案内)のご相談ですね。ウグワンケのことを、専門用語では遷座式(せんざしき)と言い、それに関わるお勤めを遷座法要(せんざほうよう)とよびます。

遷座とは、読んで字のごとく、座を遷(うつ)すという意味があり、総じて移動・引越しを表します。双方のアドバイスのうち、前者は、1階も2階も同じ住宅であり、「ミージーチヌカンガナシー(御屋敷之神加那志)が同じ」との考えによられていると推測いたします。

一つの屋敷の土地に、一つの住宅という観点から、1階・2階に関わらず、住宅内でのお仏壇やミーヒヌカンガナシーの遷座については、ウグワンケや引越し

に該当しないという考え方は、もちろん、遷座とはとらえませんが、簡単に移動ができるという結論に至るわけでは、ありません。

一方で後者は、「お仏壇」と「ミーヒヌカンガナシー」の座、つまり安置されている場所の移動ととらえますので、同じ住宅内の移動でも座が遷るといふこととなり、作法・心得が生じてくるというわけです。

沖縄では、この双方の考え方が、地域性の違いで、同じように畏敬されているようです。

今回、Tさんのお母様の三回忌法要は、私が勤めさせていただきました。その際に、台所の台座の上に石偶が3つ置かれていたのをお見受けしました。これは、ウミチムン(御三物)という、目では見ることができない火の神様を、石3つを置くことにより具現化する沖縄の仕来りの一つです。先の大戦で亡くなられた方々も同様に、遺骨が不明の場合にしかるべき場所から石(砂・サンゴの場合もある)3つを拾い上げ、遺骨とみなして骨壺にウグワンケするのですが、これはマブイグミ(魂込み)のときに行われる儀礼と同じ意味合いがあります。お母様も、それをご存知の上で、台所に

ウミチムンのご準備をされたのではないのでしょうか。

このような経緯から、Tさんのお仏壇の遷座法要については、寺院のご住職様に依頼することをお勧めいたします。

ミーヒヌカンガナシーのウグワンケについては、お母様のウミチムンのご遺徳を重んじ、例えば、旧暦12月24日のウグワンブトウチ(御願解き)の当日、然るべき方にご依頼して、ウグワンケを執り行われてはいかがでしょうか。

その日は、ミーヒヌカンガナシー玉皇大帝に当家の年中を報告するため、しばらく昇天される日です。

同時に、ヤシチヌウグワン(屋敷之御願)や古い祭具を交換する日でもあるとされています。今回、Tさんは、お母さんが使用されていた白色のカミウコール(神香炉)を新しく交換もされたとのことでしたので、その灰をお掃除して、ヒラウコー(平御香)の燃え残りを取り除き、新たなカミウコールにその灰の一部

を3回入れて、1階から2階への移動を終えられるとよいでしょう。

一見、悩ましいように思われる異なるアドバイスも、その分、深い内容になることが多いものです。両方に耳を傾けられていることも、自身の心の広さをあらわしており、素晴らしい経験となったことでしょう。同じ様なことで悩まれる方々へのカラハリー(羅針盤)として、この貴重な経験を語り継いであげてください。

